

個別リスク検診研究
ニュースレター

「アイリスレター」は、
個別リスクの内視鏡検診研究に
ご協力いただいた方に
お送りしているニュースレターです。



見出し

- *2023 年度リクルート結果：研究協力者 1 万人超え1
- *タバコの健康への害2
- *研究地域紹介：仙台市4

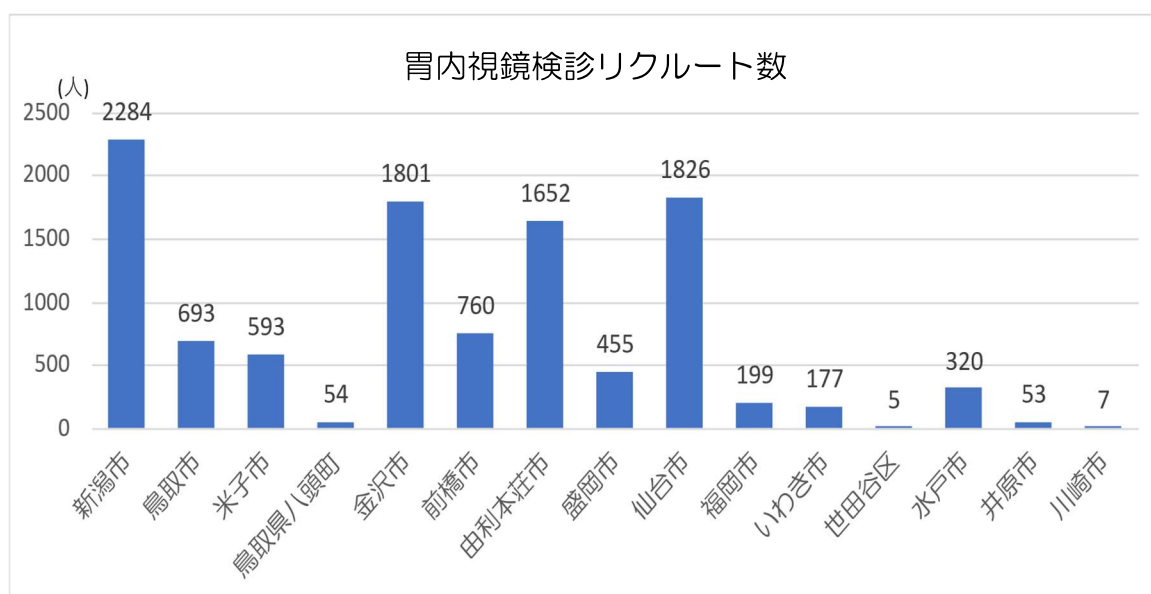
発行日 令和6年3月 15 日

発行元 胃内視鏡検診
研究事務局URL <http://www.j-sasg.jp/>

2023 年度リクルート結果：研究協力者 1 万人超え

2023 年度には新たに 2 地域（神奈川県川崎市、岡山県井原市）が加わり、全国 8 地域で研究協力者のリクルートを行いました。2022 年 12 月にはようやく研究協力者が 1 万人を超え、2023 年 12 月には 10,879 人となりました。目標とする 12,000 人まであと一息というところまで来ています。次年度以降について、一部の地域でリクルートの継続を検討しています。

今後はアンケート調査をはじめとする追跡調査が主体となります。研究の進捗状況については、アイリスレターや研究班ホームページを通じて情報発信していきます。皆様には、引き続き、ご協力をお願いします。



本研究は、日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」（課題番号：23ck0106729）研究班（研究代表者 深尾彰）の一部として行っています。

タバコの健康への害

国立がん研究センターがん対策研究所検診研究部 中山富雄



タバコは、古代マヤ文明の人々が最初に吸ったと言われており、儀式や治療に使われていたと言われています。15世紀にコロンブスがアメリカ大陸を発見した際に、先住民が吸っていたタバコをヨーロッパに持ち帰り、急速に広まりました。日本にも16世紀にポルトガル人が持ち込み、喫煙習慣が広まりました。

1950年代のアメリカで、「喫煙と健康の問題に関する報告書」が提出され、1964年にはアメリカ公衆衛生局からのレポートで喫煙が病気の原因であるという宣言がなされ、世界は禁煙の方向に動き出しました。

タバコには、ニコチンによる「依存性」と健康に悪影響を与える「有害性」に加えてメンソールなどによる「魅惑性」があります。タバ

コの煙の中には実に5,300種類の化学物質が含まれ、うち70種類は発がん物質が含まれます。

2016年にわが国で公表された「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」（通称 タバコ白書）では、タバコと病気との因果関係を科学的に判定し、肺、口腔・咽喉頭、喉頭、食道、胃、膵など12のがんを、また虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）、脳卒中、腹部大動脈瘤などの循環器疾患を、更に肺の疾患として慢性閉塞性肺疾患（COPD）をレベル1（タバコとの因果関係が確実）として判定しています。このほか2型糖尿病や妊婦の喫煙による乳幼児突然死症候群や早産、低出生体重など非常に多岐な病気がレベル1に判定されています（表1）。

表1 タバコの本人喫煙による健康影響

レベル1 (タバコとの因果関係を推定する証拠が十分；確実)	- がん；肺、口腔・咽喉頭、喉頭、鼻腔・副鼻腔、食道、胃、肝、膵、膀胱、子宮頸部 - 肺がん患者の生命予後悪化、がん患者の二次がん罹患、かぎたばこによる発がん - 循環器の病気：虚血性心疾患、脳卒中、腹部大動脈瘤、末梢動脈硬化症 - 呼吸器の病気：COPD、呼吸機能低下、結核による死亡 - 糖尿病：2型糖尿病の発症 - その他：歯周病、ニコチン依存症、妊婦の喫煙による乳幼児突然死症候群（SIDS）、早産、低出生体重・胎児発育遅延
レベル2 (タバコとの因果関係が示唆される；可能性あり)	- がん：大腸がん、腎尿管・腎細胞がん、乳がん、前立腺がん死亡、急性骨髄性白血病 - がん患者全体の生命予後悪化、再発リスク増加、治療効果低下および治療関連毒性（治療による副作用がでる） - 循環器の病気：胸部大動脈瘤 - 呼吸器の病気：気管支喘息の発症と増悪、結核の発症と再発、特発性肺線維症 - その他：う蝕（虫歯）、口腔インプラント失敗、歯の喪失、閉経後女性の骨密度低下、大腿骨近位部骨折、関節リウマチ、認知症および日常生活動作、女性の生殖能力低下、妊婦の子宮外妊娠・常位胎盤早期剥離・前置胎盤、妊婦の子癰前症・妊娠高血圧症候群（PIH）のリスク減少

「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」(2016)より引用



またレベル2（可能性あり）の中には、大腸がんや乳がん、急性骨髄性白血病、胸部大動脈瘤、気管支喘息、特発性肺線維症に加えて、虫歯や骨折、関節リウマチなども判定されています。このように、本人のタバコの喫煙は気がつかない間に、体の多くの部分をむしばんでいます。

一方、本人は喫煙しなくても周りのタバコの煙を吸わされてしまうことを受動喫煙と呼びます。受動喫煙と肺がんとの関連は、日本で行われた計画調査（平山雄；国立がん研究センター研究所疫学部長＜当時＞）におい

て、1981年に初めて報告されています。本人が吸わなくてもヘビースモーカーの夫をもった女性では、肺がん死亡のリスクが約2倍になるという報告は印象的なものです。タバコ白書では、受動喫煙と肺がん、虚血性心疾患、脳卒中がレベル1（確実）に分類されています（表2）。またレベル2（可能性あり）として乳がんの他、急性・慢性の呼吸器症状が分類されています。本人がタバコを吸わなくとも、受動喫煙により、喘息などの症状悪化の可能性があることを理解し、タバコの煙を避けた方がよいでしょう。

表2 タバコの受動喫煙による健康への影響

レベル1 (受動喫煙との因果関係を推定する証拠が十分；確実)	- 肺がん - 循環器の病気：虚血性心疾患、脳卒中
レベル2 (受動喫煙との因果関係が示唆される；可能性あり)	- がん：鼻腔・副鼻腔がん、乳がん - 呼吸器への急性影響：急性の呼吸器症状（喘息患者、健常者）、急性の呼吸機能低下（喘息患者） - 呼吸器への慢性影響：慢性呼吸器症状、呼吸機能低下、喘息の発症・コントロール悪化、COPD

日本では、アメリカやヨーロッパなどに比べて喫煙率は高かったものの、おおよそ1996年をピークに紙巻きタバコの販売本数は低下しています（1996年；3483億本/年、2021年；937億本/年）。一方で加熱式タバコを使用する人が増え、その販売本数は2021年460億本と、紙巻きタバコの約半分に到達しています。加熱式タバコのパンフレットには、「健康懸念物質や有害性成分を90%オフ」といったことが書かれています。有害性成分が90%オフなのだから、病気になる確率も90%オフになるのではないか？と誤解しがちですが、そういった科学

的証拠はありません。また加熱式タバコは煙がなく匂いが少ないことから、周囲の人が受動喫煙だと気づかず、知らないうちにさらされてしまう危険性が高いのです。受動喫煙には有害成分の量による被害の大小を示す証拠は乏しく、たとえわずかの機会であっても、受動喫煙による健康被害が起こりうることを、WHOをはじめとしたさまざまな学会や団体が、警鐘を投げかけています。加熱式タバコは流行していますが、決して健康によいものではなく、その利用者の方はご自分や家族や周りの方を実験台にすることのないようにしていただきたいと思います。



研究協力の中止を希望する場合

本研究への研究協力の中止を希望される場合は、各地域の研究事務局にいつでもご相談ください。研究協力の中止により、地域でのがん検診をはじめとする様々な保健サービスが受けられなくなるなどの心配はありません。また、本研究につきまして、質問や意見がありましたら、各地域の研究事務局にご連絡ください。内容によっては返答に時間を要する場合がありますが、回答いたします。

研究地域紹介：仙台市



研究代表者の深尾です。本研究にご参加頂いている皆様に心から感謝しております。

さて、このコラムでは研究地域の一つである仙台市についてお話ししようと思います。仙台市は人口 110 万人の政令指定都市で東北地方最大の都市です。よく「杜（モリ）の都」と言われますが、この「杜」は神社や武家屋敷に造成したもので、自然に樹木が密集している「森」と区別しているとのこと（ウィキペディア情報）。百万都市ともなるとビルが林立し「杜の都」なんていう優雅な風情は今は昔のことですが、仙台市中央部を東西に走る定禅寺通り（じょうぜんじどおり）の 4 列 700 メートルにも及ぶけやき並木にはその名残を残しているかもしれません。その下を通ると、さとう宗幸の「青葉城恋歌」を思い出します。東京までは昔は東北本線の特急で 4 時間だったのが、東北新幹線で最速 90 分と出張が楽になりました。1987 年に開通した地下鉄が南北線に加えて 2015 年には東西線が開通しましたが、この十字形路線では恩恵にあずかる人口に限られ、相変わらず自家用車通勤者の数は減らないようです。2011 年に起きた東日本大震災から 13 年目を迎え、宮城県全体で見てもやっと復興

の形が見えてきましたが、今年の元旦に発生した能登半島大震災の甚大な被害の様子を見るにつけ、13 年前のことがフラッシュバックしてきます。「災害は忘れた頃にやってくる」というのは嘘で「災害は忘れる前にやってくる」というのが正しいような気がします。ともあれ、1 日も早い復旧・復興をお祈りするばかりです。

仙台の名物といえば牛タンが有名ですが、私が若い頃は名物というほどポピュラーなものではありませんでした。今や町中に牛タン屋がひしめいていてどこも繁盛しているようです。娘がまだ小さいころ、焼き肉屋で「これは牛タンと言って牛のベロだよ。ところどころにブツブツがあるけど、これ牛の口内炎かもな。」と私が余計なことを言って以来、彼女は仙台名物を口にしておりません。

宮城県対がん協会は、X線装置を搭載した車による胃がん検診を 1960 年に日本で初めて開始した施設です。以来受診者は延べ 900 万人を超えており、2019 年度からは仙台市市民を対象にして内視鏡検診も開始しました。当協会の検診を通じて大勢の方々にも本研究にご参加頂いています。

胃内視鏡検診研究中央事務局

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

帝京大学 医療技術学部看護学科 保健医療政策研究室

URL: <http://www.j-sasg.jp/>

E-mail: endoscope.jimukyoku@gmail.com

胃内視鏡検診研究事務局